

令和二年 十二月七日(月)

茨城新聞より

英語で豪州児童と交流

古河市 駒羽根小 オンライン学習

古河市駒羽根の市立駒羽根小学校(長瀬裕二校長)で11月27日、オーストラリア南東部ビクトリア州の小学校と結んだオンライン英語学習が行われた。4年生

2クラスの計44人がビデオ通話アプリ「Zoom(ズーム)」を使い、英語と日本語で現地の小学生との会話を挑戦した。



英語学習は同校独自の取り組みで、昨年から始まった。児童の英語力やコミュニケーション力の向上と、世界への関心を高めるのが目的。空手道の選手だった箕輪豪州の小学生とじゃんけんを通じてオンライン交流する駒羽根小の4年生(古河市駒羽根)

真央教諭(26)が、留学先の豪州で築いた人脈を生かして企画した。

児童が交流したのはセントポールズ・アングリカン・グラマースクールの6年生。4年2組では、児童2人と現地の小学生が1対1で向き合い、名前や趣味などを自己紹介。その後、希望した児童が好きな動物やスポーツなどを尋ね、他の児童が回答をメモに書き取って英語力を磨いた。

また、互いの代表の児童がモニター越しにじゃんけんで勝負。楽しみながら心の距離を縮め合った。

鈴木彩羅さん(10)は「聞き取るのは難しかった。もっと勉強して、学校の話などをたくさんしたい」と英語の上達に意欲を見せた。英語が好きという大賀千紗都さん(10)は「外国の子と友達になって、一緒に遊びたい」と笑顔で話した。

(溝口正則)

◎本校 4年生組の
外国語活動の取り組み
が茨城新聞に紹介され
ました。
今日の授業は4年生1
組でも実施しました。
子供たちは熱心に英語
を話していました。